

# 魚沼漁協だより

NO. 76

平成30年1月18日

発行 魚沼漁業協同組合  
組合長 皆川 雄二

魚沼市佐梨 1105-16  
TEL (025) 792-0261



## あけまして おめでとーうございます

代表理事組合長 皆川 雄二

平素より魚沼漁業協同組合の各種事業にご理解  
とご協力をいただき感謝申し上げます。

昨年は、役員の改選年にあたり、五月二十八日  
の総代会にて新たな役員が誕生し、三年間新体制  
での運営がスタートしました。私も引き続き組合  
長を担っていくこととなりました。組合員の高齢  
化、急激な減少など厳しい経営状況の中にあいま  
すが、健全経営に向けて精いっぱい努めますので、  
各支部、分会、組合員の皆様からはさらなる支援  
とご協力をあらためてお願いいたします。

さて、昨年の河川状況等を振り返りますと、冬  
期は平地は少雪でしたが、早春の三月中旬・下旬に  
強い寒気が入り、季節外れの大雪を魚沼の高山に  
もたらし、さらには、六月の低気温、七月の相次  
ぐ大雨と出水、八月になつても雨天の日が多いな  
ど、全体的に日照不足と低水温の状態が続きまし  
た。また、破間川では上流の災害発生地からの濁  
水により、漁期間全く澄むことがないなど、極め  
て悪い河川状態であり、これにより魚野川合流部  
下流域にも大きな影響がありました。

あめ漁については、放流稚苗において中間育苗  
の太りが悪く、野積の海産稚魚は雪代による増水  
と千曲川上流の災害地による濁水の影響で、他の  
天然遡上河川が稀に見る豊漁だったことに比べ、  
前年の一五%にとどまるなど異常なほど少ない状  
況でした。不足分を富山県産、山形県産を追加し  
ましたが、放流後も前述の天候状況による低水温  
によって、稚魚の育成が悪い中に、大きな出水や  
新垢が付くとまた増水で洗われるなどの生育環境  
の状況となりました。このため、平成二十八年に

は近年になく大型かつ豊漁で日券九千枚もの発行  
が、昨年は三千四百枚と大幅減となり、残念な結  
果に終わってしまいました。

溪流魚については、稚魚の義務放流数確保のほ  
か、遊漁者の要望に応え、漁協で育てたイワナ、  
ヤマメの大型成魚や大型ニジマスの放流により、  
好評を得ることができました。溪流魚は堅調に推  
移しています。

秋さけ漁では、九月下旬から十月下旬までの約  
一カ月間、伊勢島一括採捕場で捕獲、採卵、受精  
し、目標数の確保に努めました。十月二十三日の  
台風二十一号でウライの越水、砂利堆積で、例年  
より約一週間早く採捕ができなくなりましたが、  
何とか目標とする受精卵二五〇万粒を確保するこ  
とができました。また、採捕したサケは、みそ漬  
け、サケチップ、塩引きなどに加工し、販売しま  
した。リピーターも多く、好評でした。

カジカ、コイ、フナ、ウナギは、義務放流数を  
確保し放流できましたが、ワカサギについては、  
生産地の状況で発眼卵の確保ができず、目標を下  
回りました。

ご承知のとおり内水面漁業は、海面漁業のよう  
に豊富な資源環境になく、魚類の自然回復力が極  
めて小さいため、放流による増殖の義務を達成す  
ることにより、漁業権の許可を得て運営していま  
す。引き続き義務放流数の確保はもとより、漁協  
における優良魚の生産・放流に努めてまいります。  
一方、丹精込めて育て、せっかくな放流した魚も、  
カワウ、サギ類や外来魚のブラックバスなどによ  
る被害が大きく、全国的に深刻な問題となってい

ます。当組合でも、国・県の補助制度を活用し、  
猟友会の皆さんの協力を得ながら、支部・分会役  
員との連携により駆除に努めてまいりました。そ  
れにも増してカワウの飛来数の増加、ブラックバ  
スの生息域拡大などまだまだ課題がありますが、  
引き続き精力的に対応してまいりたいと考えてお  
ります。

また、魚族が健全に育ち、外敵から身を守るた  
めには、なんといつても魚の棲みやすい川づくり  
が不可欠です。魚道の改修、巨石等自然石の活用、  
堆積土砂の除去など、今後とも河川管理者をはじ  
め関係行政機関等への要請と調査・研究を進めな  
がら改善に取り組んでまいります。

昨年は、昭和五十年から平成二十三年まで  
三十七年間の長い間、組合長として魚沼漁業協同  
組合の発展にご尽力いただいた桜井新氏が逝去さ  
れました。心からご冥福をお祈りいたしますと  
もに、あらためて氏の生前のご意思を引き継ぎ、  
魅力ある組合づくりに取り組んでまいりたいと考  
えます。

本年が豊漁で、皆様の笑顔があふれる良き年と  
なりますことをご祈念申し上げます、年頭の挨拶とい  
たします。

